今日のイラスト 465　「 イラストでたどる萩往還㉚ 禅昌寺」　　古谷眞之助

イラストでたどる 萩往還 30 禅昌寺

禅昌寺は応永三年（１３９６）大内義弘によって開創された曹洞宗の古刹で、往時は千人近い修行僧を擁し、西の高野と呼ばれたという。萩往還からは少し東の山手に位置する広大な境内には本堂の他に、山門、鐘楼、禅堂などが配置されている。毎年春になると新入社員の座禅研修の模様がテレビで放映されるのを御覧になった方も多いことだろう。

毛利家の諸事を網羅した記録書「もりのしげり」には、ここを「鯖山御殿」と仮称したと書かれているので、参勤交代時には宿泊や休憩場所として使用されたようだ。久坂美和も、明治三年四月十八日、元徳公夫人のお供をして三田尻経由で長府を訪れる際にここで休憩したと「女儀日記」に記されている。

文・イラスト＝古谷眞之助

禅昌寺のことについては大した知識は持っていない。そのため「サンデー山口」に掲載した記事をそのまま転載して誤魔化してしまうことにする。『禅昌寺は応永三年（１３９６ ）大内義弘によって開創された曹洞宗の古刹で、往時は千人近い修行僧を擁し、西の高野と呼ばれたという。萩往還からは少し東の山手に位置する広大な境内には本堂の他に、山門、鐘楼、禅堂などが配置されている。毎年春になると新入社員の座禅研修の模様がテレビで放映されるのを御覧になった方も多いことだろう。毛利家の諸事を網羅した記録書「もりのしげり」には、ここを「鯖山御殿」と仮称したと書かれているので、参勤交代時には宿泊や休憩場所として使用されたようだ。久坂美和も、明治三年四月十八日、元徳公夫人のお供をして三田尻経由で長府を訪れる際にここで休憩したと「女儀日記」に記されている。』というような次第である。

小写真は、2019 年４月８日から萩往還を実に 11 回に分けて歩き通されたご一行で、その９回目に禅昌寺に到着してお弁当をいただいている皆さん。完歩されたのは開始後丁度２年後の 2021 年４月６日のことだった。全所要時間 56 時間 15 分、１回当たりの平均歩行距離は 4.8km。これを何と５時間以上かけて歩いた計算になる。通常では考えられない所用時間だが、ともかく無理せずにゆっくりゆったり、足が痛くなるようなこと絶対避けて、休憩時間もたっぷり、気になるところには立ち寄りながら、楽しく笑いながら歩くという「行動哲学」を貫き通された皆さんだった。クリが落ちていれば大騒ぎ、サワガニが出てくるともっと大騒ぎ、歴史の話は毎回堂々巡りで、山口方言には大いに盛り上がるというような次第で、これほど気楽にガイドしたのは後にも先にもないだろう。実のところ、私自身が一番楽しんだのかも知れない。片や萩往還を一日で走り通すランナーもいる。しかし、彼らは萩往還の風景なり歴史なりを楽しんだのだろうか、単に山の中を走り抜けただけではないか。どちらが賢明か、答えは明らかである。（2021.9.21 記 ）